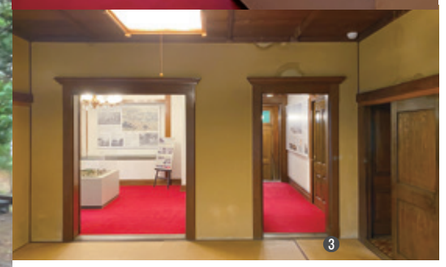
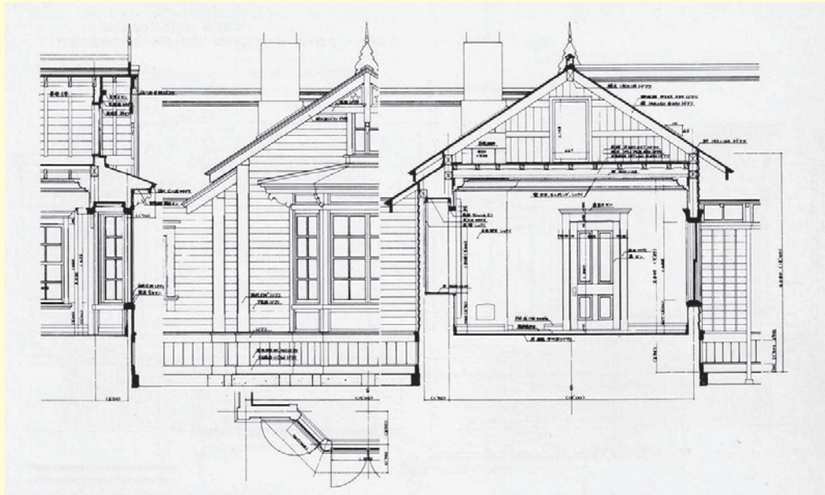


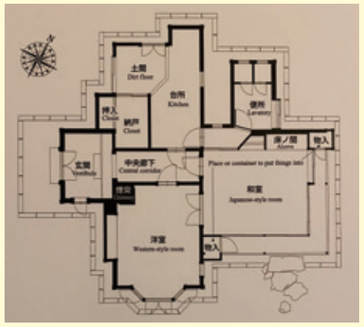
❶建築当時と同じ場所に佇む和洋折衷の建物。2023年から実施された耐震改修・保存修理工事で屋根に板金加工が施され、経年劣化により腐食が著しかった下見板や棟飾りなどが交換された。
❷洋室には、当時は珍しい出窓が設けられた。
❸和室と洋室が隣り合い、洋風の建具額縁が和室にそのまま現わされている。

PLAN/SECTION



上／復原断面図
出典：『百年の清華亭』

下／平面図
南北の洋室棟と東側の和室棟からなる和洋両様式の建物。
出典：『百年の清華亭』



❹和室には庭園の眺めを取り込むため、窓付き障子と縁側が設けられている。
❺約15畳の和室は伝統的な書院造り。

竣工年／1880(明治13)年
所在地／北海道札幌市
設計者／開拓使工業局営繕課

歴史的ツーバイフォー建築物を訪ねて
―明治～昭和初期―

第14回　偕楽園水木清華亭（かいらくえんみずきせいかてい）

アメリカ式建築の影響を受けた和洋折衷住宅の遺構

内田青蔵（神奈川大学建築学部特任教授）

豊平館と兄弟のような建築

前回、ツーバイフォー建築との関係もあり、かつ、北海道でもっともよく知られた建築のひとつとして明治13(1880)年竣工の豊平館を取り上げた。この建物は外国人用ホテルとして計画され、同時に翌年の天皇行幸の際の行在所としての役割も担ったことを紹介した。

ところで、天皇行幸に際して、この豊平館とともに用意されていた建物がもうひとつあった。それが、今回紹介する開拓使の貴賓接待所として計画された偕楽園水木清華亭である。竣工年も明治13年で、設計も同じ開拓使工業局営繕課であり、この建物も豊平館と共通した特徴を有する建築であることは想像されることであろう。

この建物が建つ偕楽園は、開拓使が明治4(1871)年に札幌に拓いた日本で初めての公園で、水戸の「偕楽園」に模して、孟子の「古（いにしえ）の人は民と偕（とも）に楽しむ」によったものであるという。また、開設当初は、「内外凡百ノ植物ヲ栽培シ風土ノ適否ヲ試ルヲ主トス」と紹介されており、単なる人々が楽しむための場というよりは、内外の植物などの実験の場としての意味合いが強いものであったようで、その後は、試作農場や仮博物場、サケ・マス人工ふ化場、競馬場といったさまざまな施設が造られた[1]。そして、明治7(1874)年に開拓使の草木培養方として雇われたアメリカ人ルイス・ベーマーにより明治11(1878)年から庭園整備が行われ[2]、貴賓接待所の建設へと計画が進むなか、天皇行幸の予定もあってこの水木清華亭が貴賓接待所として建設された[3]。明治天皇は明治14(1881)年9月1日の天皇行幸の際に、ここを訪れ小休されたのである。なお、「水木清華亭」という名称は、開拓使長官であった黒田清隆の命名で、扁額も自ら執筆したという[4]。

清華亭の特徴

さて、この建物は木造平屋で床面積が約37坪と小ぶりのものだ。ただ、内外ともに、和館と洋館が一体化されたつくりになっていることは、極めて注目すべき特徴といえる。すなわち、間取りは、土間のある玄関に幅広の廊下があり、その廊下を挟んでベイウインドウ(出窓)付きの洋室と台所等の附属部分、そして、廊下の突き当たりには伝統的な座敷飾りや縁側のある和室が置かれ、外観も洋室並びに附属部分は下見板張りの洋風、和室部分はササラ子下見板張りの和風と、和と洋の併存したつくりになっているのである。こうしたひとつの建物に和室と洋室が併存している住宅は、明治以降に出現したわが国独自のもので、この清華亭はその極めて早い事例といえるのである。なお、一般的には和室と洋室が併存する住宅の出現は、明治30(1897)年以降の中流住宅から開始されたと考えられているが、開拓使の官舎などでは明治初期にすでに見られる[5]。開拓使がアメリカの技術援助をもとに近代化を進めるなかで、住宅にもいち早く洋館や洋間を取り入れようという動きが試みられていたのである。清華亭は、開拓使の新しい動きを先取りしていたことを示す遺構でもあるのである。

清華亭の構法

次に、清華亭の構法を見てみよう。そのつくりは、実に興味深い。和室部と洋室部とではそれぞれ異なる構法を用いているのだ。すなわち、和室部の小屋組は伝統的な和小屋が採用されているのに対し、洋室部は陸梁と垂木による三角形状の合掌風の構造形式といえ、かつ、その陸梁と垂木が長方形状断面のいわゆる板材風の部材を用いている。とくに、洋室部に見られる合掌風の構造形式や板材風の部材の使用は、まさに当時アメリカから持ち込まれたバルーン・フレーム構法に近いものといえる。その意味でも、清華亭も前回の豊平館同様に、アメリカの影響を強く受けるなかで、模索された建築であったといえるのである。

洋室内観。天井中央のシャンデリア基部には和風の桔梗模様が漆喰で施された。

［註］
1)・4)札幌市教育委員会編『百年の清華亭』 1980年
2)・3)・5)越野武『北海道における初期洋風建築の研究』北海道大学図書刊行会　1993年

［参考文献］
越野武『北海道における初期洋風建築の研究』北海道大学図書刊行会　1993年

本施設は見学可能です。［問い合わせ先］清華亭 現地警備員室011-746-1088